

医療・福祉における芸術療法プロジェクト

沖野成紀^{*1}・磯部二郎^{*1}・近藤真由^{*2}・堀 真奈美^{*3}・渡辺哲生^{*4}

はじめに

「医療・福祉における芸術療法」プロジェクトは¹⁾、SOHUM 計画当初からあったプロジェクトの1つであるが、直接の前身プロジェクトがなかったため開講まで慎重を期し、ようやく2011年度秋学期にその1回目の「人間学1」を開講した。担当教員には、計画当初からのリーダー、沖野、リーダー代行の磯部、音楽療法が専門の近藤（以上音楽学課程）の他、他学科他課程からは、写真が専門の渡辺（デザイン学課程）、医療制度が専門の堀（社会環境課程）が加わり、さらには箱庭療法が専門の1つである体育学部吉川政夫教授にも、箱庭の実習授業を1コマお願いした²⁾。

これを受け、「人間学2」は、2012年度の夏期集中授業として初めて開講された。蓋を開けてみると履修者はたった1人であったが、翌2013年度は4名の学生が履修してくれた。まだ担当教員の数の方が多いが、まずまずの出だしと思われた。ところが、喜びも束の間、2014年度は履修者が0となってしまったのである³⁾。

本プロジェクト存亡の危機かと思われたが、翌2015年度の「人間学2」には、初めてデザイン学課程から2名が履修してくれ、その結果、初めて大幅に造形芸術的要素を取り入れたセッションを行うことができた。まず、これについて報告する。

1. 夏期集中授業「人間学2」

今回の履修者はデザイン学課程の女子2名のみであった。そこで、同じくデザイン学課程の渡辺の指導の下、従来の音楽中心の芸術療法からシフトし、初の造形中心芸術療法のプログラムを考えてもらうこととした。そして、昨年度同様、2人で1つの芸術療法チームを組み、集中授業の枠内で計画、準備、練習した上で、外部のクライアントに対して実際に集団芸術療法セッションを実施する、という授業計画を立てた。

受理日2016年11月23日

*1 教養学部芸術学科音楽学課程教授 *2 教養学部芸術学科音楽学課程准教授

*3 教養学部人間環境学科社会環境課程教授 *4 教養学部芸術学科デザイン学課程教授

6月3日	1コマ	初顔合せと方針・日程決め	全員
8月31日	5コマ	音楽療法見学@ぬくもりの家	近藤
9月2日	2コマ	芸術療法セッション準備(1)	渡辺
	2コマ	芸術療法セッション準備(2)	磯部
9月3日	4コマ	本番@小金塚集会所と反省会	全員
	1コマ	レポート等	沖野
(計15コマ)			

まず、通常授業期間中に1回、初顔合わせと今後の方針・日程決めのために、全担当教員と履修生に集まってもらった。電子メールによる日程調整が実を結んだのは、昨年同様6月に入ってからのことであった。よって、今回は最初から、一度の会合で全日程を決めるつもりで臨んだ。

夏期集中講義期間の8月31日、大学の近くにある介護老人保健施設《ぬくもりの家》にて、近藤が音楽学課程において指導している音楽療法セッション実習を、芸術療法の範例として本科履修生に見学してもらった。内容は1日掛りで、近藤による事前レクチャーから始まり、セッションの見学、そして最後に振り返りと芸術療法セッションへの助言で終わった。

この経験を踏まえ、9月2日やはり1日掛りで、履修生にセッションの準備を自主的にしてもらった。その間、渡辺と磯部が交代で2コマずつ担当し、各自の立場から助言した⁴⁾。

そして9月3日、いよいよセッション本番を迎える。場所は伊勢原市の小金塚集会所、対象は同市の社会福祉協議会の主催するミニサロン「すみれ会」に集う高齢者20名弱である。当日は、セッション開始が午前9時半の予定であったので、8:45には全員集合、最終準備、学用車を借りて機材を運搬した。そしてセッション本番中は、担当教員も全員スタッフとして参加し、学生チームのサポート、およびカメラやビデオによる記録等を行った。

さて、彼女たちが考え出してくれたプログラムのメインは、「プラ板」であった。プラ板とは、プラスチック板に絵を描いてオーブントースター等で加工・固定化するものである。延伸加工で作られるポリスチレンのプラ板は、再加熱により元の形に戻ろうとする性質がある。その結果面積が縮小し厚みが増すので、手作りアクセサリとしても活用できる。プラ板は、1980年代から1990年代前半にかけ、小学生の間で科学遊びとして流行ったらしい⁵⁾。文責の沖野を含め、多くのクライアントにも知らなかったが、ちょうど流行の末期に生まれた履修生達は、何らかの機会に知るところとなったのであろう。2人は各クライアントに1枚ずつ配布したプラ板を使って、塗り絵、パズル、アクセサリ作りと、3段階も楽しめるプログラムを考案してくれた。

配布された半透明のプラ板は、事前準備で、ハガキ大の或る形状にカットされ、シンプルな草花図案がドローイングされていた。各クライアントには、まず、これにカラーペンで思い思いに塗り絵をしてもらう(図1)。

これが第1段階であるが、このまま加熱処理すれば、普通のプラ板遊びに過ぎない。ところ



図1 プラ板の塗り絵

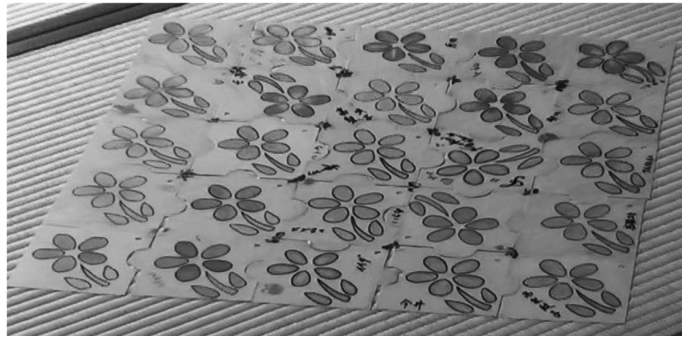


図2 完成したプラ板ジグソーパズル

が、配布時のプラ板形状は、よく見ると、ジグソーパズルを大きくしたような形をしている。そう、何とこれらは、 $5 \times 5 = 25$ ピースの巨大ジグソーパズルとしてカットされていたのだ。

という訳で、第2段階は、クライアント（および余りを担当した我々スタッフ）が各々の塗り絵したプラ板を持って一堂に会し、皆でジグソーパズルを完成させる、という課題であった。各ピースの図柄は、基本的には1つ1つが独立完結した草花図であったため、ピース組み合わせのヒントとして角には印が描かれていた。これらを頼りに組み合わせて行く訳だが、これが結構難しく、事前準備した履修生らも加わって試行錯誤した結果、やっと完成した。そこには、25本の花が織り成すお花畑が出現した（図2）。

予定より時間は掛かってしまったが、皆さん結構集中かつ協力してパズル解きに当たって下さり、結果としてこのことが、クライアントにとって適度な知的作業課題となって、単なるプラ板遊びでは得られない効果をもたらしたのではないかと感じた。完成したパズルを前に、皆で集合写真を撮って記念とした。

そして、惜しみつつ完成パズルをばらした後、最終段階はオーブントースターによる加熱処理である。これは、プラ板が高熱になって危険なので我々スタッフが作業し、その間クライアントには待機してもらった。反省点は、トースターが1台しかなかったため、長時間の加熱によってトースターが高温化し、サーモスタットが働いて電源が切れる度に暫く冷めるのを待つ、といった事態が繰り返されたことである。おかげで予定より大分時間が掛かってしまい、先のパズリングの時とは違って、クライアントを徒らに待たせてしまった。

熱処理によって、ハガキ大の薄いプラ板は、掌で握れるほど小さくかつ厚めのプラスチック塊と変化した。そしてその表面には、印刷されたかと思ふばかりの、縮小された自分の塗り絵が……さらに、当初から隅に開けてあった穴に飾り紐を通して結ぶことで、それは絶好のアクセサリーとなった。クライアントの皆さんに、喜んでお持ち帰りいただいたことは言うまでもない（図3）。

最後に、せっかく音楽の教員がいるので機部のアコースティックギターと近藤のキーボードによる伴奏に合わせて、全員で『三百六十五歩のマーチ』を合唱し、芸術療法セッションはお開きとなった。

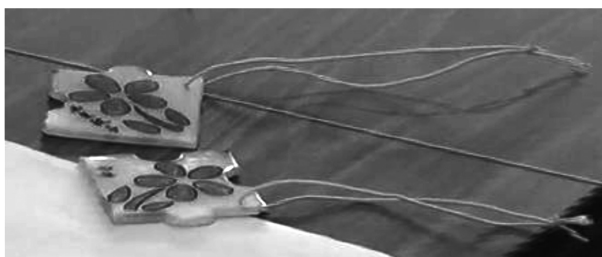


図3 アクセサリーとなったプラ板

午後は、大学に戻って反省会を行った。時間がたっぷりあったので、皆で撮ったばかりのビデオを全編再生しながら、自由にディスカッションした。

初の造形中心芸術療法は、若い2人のアイデアと積極性によって、大成功を収めたと言って過言ではない。次に、秋学期に開講された「人間学1」について報告する。

2. 秋学期講義「人間学1」

授業計画は、前々年度・前年度同様⁶⁾、今年度も担当教員の都合により、「概論→制度論→実践論」という理想的な流れから「概論→(実践論)→制度論→(実践論)」に変更したままとせざるをえなかった。

9月30日	ガイダンス	沖野
10月7日	芸術療法概論(1)	磯部
10月14日	〃 〃 (2)と小レポート(1)	〃
10月21, 28日	造形芸術の臨床的応用(1)(2)	渡辺
11月11日	〃 〃 (3)と小レポート(2)	〃
11月18, 25日	医療と福祉の制度(1)(2)	堀
12月2日	〃 〃 (3)と小レポート(3)	〃
12月9日	箱庭療法実習	吉川(体育学部)
12月16, 1月6日	音楽療法(1)(2)	近藤
1月13日	音楽療法(3)と小レポート(4)	近藤
1月20日	まとめと人間学2へのガイダンス	沖野 〃
1月27日	課題テーマに対するレポート	〃

成績は、例年と同様、主として4回の小レポートと最後の「課題テーマに対するレポート」を基につけられた。小レポートの課題は、それぞれ、芸術療法の歴史と概要に関する講義のまとめ、「写真撮影行為による外界の理解～私のTopos」をテーマに1枚の写真プリントの提出、芸術療法に公的保険を適用すべきかどうか、音楽を使って療法をする意味と可能性、であった。最終レポートの課題テーマは、「具体的な対象者を想定した上で、そこで実施する芸術療法セ

ッション計画を、具体的に考えなさい」であった。

履修者による授業についてのアンケートの中で、総合評価の本科目平均値は、前々々回3.97、前々回4.24、前回4.27、今回4.34と順調に上がって来ており、各教員の努力の跡が窺える。逆に、教員による成績評価の平均 GPA は、「／」評価（授業放棄者等）を除いて、前々々回2.53（49名）から前々回2.59（22名）と僅かながら上がった後、前回2.35（26名）と下がって、今回も2.35（34名）と横這いである。だが、履修者数は再び増えてきた上での数字なので、まずはよしとしたい。

註

- 1) プロジェクトそのものの趣旨は、東海大学教養学部サイトにある (<http://www.shc.u-tokai.ac.jp/prj/> 医療・福祉における芸術療法プロジェクト-2/, 2016/11/22 確認)。
- 2) 現在は名誉教授ゆえ、2015 年度が最後のお願いとなった。再四、記して御礼申し上げる。
- 3) ここまでの経緯については、今までの報告書を参照のこと。沖野成紀，磯部二郎，近藤真由，堀真奈美，渡辺哲生「SOHUM『医療・福祉における芸術療法』プロジェクト」（『東海大学紀要 - 教養学部』45 輯，2014 年，423-426 頁），同「医療・福祉における芸術療法プロジェクト」（『東海大学紀要 - 教養学部』46 輯，2015 年，295-297 頁）。
- 4) なお、今回、沖野と堀は、本番前日まで他業務が入っていたため止むを得ず事前準備には参加できず、最初のミーティングと本番当日のみの参加となった。
- 5) ウィキペディア「プラ板遊び」2016/11/22 参照。
- 6) 沖野他，前掲書を参照のこと。